自治医科大学看護学部通信　第 21 号

ビタミン Vitamin・N nurse

学部長あいさつ

看護学部長・教授　小　原　　泉

令和６年４月より、看護学部長を務めさせていただくこととなりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年は元日に能登半島地震が発生し、自然災害が人々の命や暮らしに及ぼす影響の大きさに改めて直面することとなりました。ウクライナやパレスチナにおける終わりの見えない戦争など国内外ともに痛ましい出来事が続いており、亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々へのお見舞いを心より申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行して1年がたちました。本学附属病院等は新型コロナウイルス感染症に感染すると重症化リスクが高い方々が利用されているため、学生も教職員も自らが感染した場合は就学や就業を制限され、感染を拡大させない行動が求められます。しかし、本看護学部の教育プログラムを学生の皆さんに存分に提供できる日常が戻ったことは大変喜ばしい状況です。

臨地実習については、１年次生は６月に本学附属病院で臨地実習があり、人を理解することの奥深さと看護職の役割の素晴らしさを学ぶことができました。２年次生は、９月から 10 月に本学附属病院で実習を予定しており、初めて患者を受け持ち、日常生活を支える看護実践を経験します。３年次生は、老年期の対象の療養や生活の場における看護、高度医療の場における成人・老年期患者への看護を学ぶための新たなプログラムを用意しています。その他、本学の附属病院・附属さいたま医療センターにおける周産期看護、小児期看護、成人･老年期看護の実習、県内の保健医療福祉施設における精神保健看護実習、在宅看護実習、公衆衛生看護実習が組まれています。４年次生は７～８月に２週間の実習があり、学生は様々なフィールドで自身の関心テーマに基づく実習を経験します。４年間の学びの総仕上げとなる実習であり、教員にとっても成長した学生の姿が楽しみな実習です。助産師を目指す４年次生は、９月から助産学実習が始まります。本看護学部のミッションの1つに、高度医療と地域看護に従事できる臨床能力を備え、保健医療福祉に貢献できる看護職を育成することがありますがこのミッションに即した実習教育が実現できるのは、受け入れて下さる実習施設のご支援のおかげであり、関係者の方々に深く御礼申し上げます。

「へき地の生活と看護」は、へき地に住む人々の生活と看護の特徴を学ぶ科目です。選択科目ではありますが学生の関心は高く、今年度の国内演習は北海道夕張市、青森県東通村、福島県富岡町、群馬県中之条町、新潟県湯沢町、福井県おおい町、愛知県東栄町、滋賀県米原市、奈良県下北山村、島根県海士町･西ノ島町･知夫村、山口県周防大島町、香川県直島町、鹿児島県瀬戸内町の施設で予定しています。施設・自治体職員そして住民の皆様、ご協力いただきました地域医療振興協会の方々に深く感謝申し上げます。

その他国際交流については、本年３月にモンゴル医科大学ダルハン校の教員と学生が来学され、交流を深めることができました。コロナ禍の期間はオンラインシステムを介した交流でしたので、対面での交流再開は大変喜ばしく、学生の国際性を育む機会として今後も実り多いプログラムを提供したいと考えます。

本看護学部は開設 23 年目となり、2000 名近い卒業生を輩出して参りました。これまで本看護学部の教育を支えて下さいました大勢の方々に改めて感謝申し上げますとともに、今後もご理解とお力添えをよろしくお願い申し上げます。

新たなプログラムでの日常生活援助実習を終えて

「日常生活援助実習」科目責任者・基礎看護学教授　　小原　泉

日常生活援助実習は学生が初めて患者さんを受け持ち、日常生活の援助方法を学ぶ実習で、2年次の9月から10月下旬に本学附属病院で実施しています。令和4年度入学生から本看護学部のカリキュラムが新しくなり、実習日数を5日増やした15日間のプログラムとなりました。令和5年度が新たなプログラムの初めての年となりましたが、その学習効果に確かな手応えを得ることができました。

学生にとって病棟実習は、たくさんの専門用語と医療機器、受け持たせていただく患者さん、病棟の看護スタッフ、実習グループメンバーとの関係形成など、非日常の環境でのチャレンジの連続です。在院日数の短縮化に伴い、受け持たせていただく患者さんが実習期間途中で変わることもめずらしくなく、患者さんの病状の変化や治療内容を理解することだけでも学生にとっては大変な経験です。そこで新たな15日間のプログラムでは、病棟実習の中間日に学内実習日を設け、教員とともに実習をふりかえって課題を整理し、残る病棟実習日に受け持ち患者の看護実践を行うための準備時間を確保しました。その結果、つまずいている原因の明確化とそれに対する助言や自信のない看護技術の練習の時間が確保される等、病棟での看護実践の準備状態を高めることができました。また、実習終盤に自分の看護実践を他のグループメンバーと共有する時間を増やしたことで、知識不足や技術の未熟さに自ら気づく機会となり、自立した学習者に成長していく支援ができたと考えています。病棟の実習指導者のきめ細かな指導は、安全な実習の実現に留まらず、学生が目標としたい看護師像につながり、学生の将来展望にも大きな意味をもたらしました。

学内の座学より楽しい、患者さんとお別れするのが寂しい、といった学生の率直な言葉が多数きかれたことは、充実した実習であったことを示していると思います。大きなチャレンジをやりきった学生の清々しい表情は達成感の表れでもあり、新たな実習プログラムの学習効果を実感させるものでした。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行したとはいえ、まだまだ気の抜けない感染管理を要する状況の中でも学習目標を達成できたのは、学生を受け入れて下さった患者さん、病棟での手厚い指導体制あってのことであり、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。さらに質の高い実習教育の実現に向けて教授スキルを磨き、引き続き前進していきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

実習グループにおける学びのプレゼンテーション（学内実習終盤）

学生生活支援と心のケアについて

学生委員長　学年担当アドバイザー総括責任者　　大塚　公一郎

本看護学部では、学生委員会が、全ての学生のみなさんが健康で安全、快適な大学生活を送れるようにさまざまな支援を行っています。メンバーである教員が、事務職員と協力しながら、健康管理や本学独自の制度を含めた奨学金貸与、本年度より女子学生寮に加えて開設された看護学部男子学生寮を含む寮の運営、臨床心理士である非常勤カウンセラーを配置した相談ルームの調整、卒後の進路指導など幅広い福利厚生の分野について計画したり、指導、助言をしています。

学生委員長である私は、学年担当アドバイザーの総括責任者を兼任しています。学年担当アドバイザーは、各学年約 100 人を専任教員 3 名が担当し、学業や人間関係の悩みなど学生生活のさまざまな問題の相談窓口となります。具体的で懇切、丁寧なアドバイスを随時受けることができるとの評価をいただいています。医療福祉系の学部一般に言えることですが、本学部における実習を含めた修学は、けっして容易なものではありません。本学部の学生も、時として、挫けそうな気持になったり、心身の不調や看護職になりたいという入学のモチベーションの揺らぎを感じたりすることもあります。それでも、自助のための努力はいうに及ばず、そのつど、実習担当や学年担当のアドバイザーの教員等に相談して助言や励ましを受け、あるいは、ご家族やともに学ぶ同級生を含めた友人らのサポートを受けて、さまざまな困難、ストレスを乗り越え、学年が進むにつれて見違えるように成長していきます。

私は、本学附属病院の精神科医師も兼務しているため、とくに、心のケアを必要とする学生をサポートする機会をもってきました。卒業するまでの学生の歩みを見まもるなかで、こんな古い格言をいまさらあげるのも少し恥ずかしいのですが、「艱難（かんなん）汝を玉にす」という思いを新たにしています。私たち教職員もそのための一助となるべくこれからも学生の支援に取り組んでまいります。

看護学生の今

4年生を迎えて

看護学部４年　清水　響生花

大学生の締め括りとなる4年生になり、この三年間を振り返ると、多くの人に支えられ今の自分があることを強く実感します。

３学年次の実習において、私たちは全ての実習を臨地にて行うことができました。

前年２学年次の実習は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、全日程の半分が学内での実習となりました。しかしながら、先生方が密に接して下さる環境下で実習の基礎を築くことができたからこそ、長い期間、かつ全てが臨地での実習という何もかもが初めての三学年の実習を無事終了することができたと思っております。

また、同じ実習を乗り越えてきた級友たちとの交友関係も広がり、今では以前にも増して学生生活が充実しているように感じます。

臨地に出て、学内では関わる機会のない方と会話をしている中では、知識や経験に富んだ人間性には多岐にわたる話題の充実を伴うことを痛感しました。

４学年では、部活動や学校生活を通して、よりたくさんの人と関わり、経験を積み重ね、社会に出る準備をしっかり整えていきたいと思います。

初めての病棟実習を終えて

看護学部３年　小堀　陽花

２年次の実習は、附属病院に入院している患者さんを受け持つ初めての機会となりました。先生方や臨地実習指導者の方々にご指導いただき、受け持ち患者さんの健康状態を把握し、日常生活を支える援助へとつなげるための看護について学びました。

日々の看護実践を通して、援助的関係の構築や確かな看護技術、個別性のある看護過程の展開などが重要だと改めて実感しました。患者さんとの関わりの中で、健康状態や価値観などを深く理解することの難しさや、自分のコミュニケーションスキルの未熟さを痛感しました。一方で、対象の生活を支えるために看護としてできることは多岐にわたると現場で体感し、看護の魅力を再確認しました。

今回の実習は、自分自身の課題や改善点を改めて認識する機会になりました。また１年次からの学習が、自らの経験や知識として身についてきている実感を徐々に持てるようにもなりました。実習後には発達段階に応じた看護過程の展開について講義や演習で学びました。今後の実習では、これまでの経験に自信を持ち、失敗を過度に恐れず、より専門性の高い看護について学びを深められるよう努力していきたいと思います。

入学から１年を振り返って

看護学部２年　高橋　璃子

自分の夢に向かって本学に入学してから1年が経とうとしています。ガイダンスとユニホームの採寸ではじめて大学を訪れた時は、緊張と不安でいっぱいでした。

日々の講義・演習では、内容の難化や課題に戸惑うこともありましたが、一緒に勉強し教えあえる友人に恵まれ、学びを深めることができました。特に演習では、技術の良い点や改善点を皆で共有することで自身のスキルをさらに向上させることができました。また、実技試験に向けてペアの学生と何度も練習をしたり、先生方に質問したりし、合格に向けて努力したことを覚えています。

加えて、新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行したことで、薬師祭も開催され、高校時代とは全く違う文化祭に新鮮さを感じました。花火ボランティアとして大学病院に入院する患者さんと一緒に花火を見たことは、とても良い思い出となりました。

この1年で私は、勉強や生活においてたくさんの新しい経験をさせてもらえたと感じています。これは、大学の教職員の方々や家族、先輩、友人などの支えがあってのことだと思います。今年度、新入生を迎え先輩として立派にふるまえるよう、感謝の気持ちを忘れず、気を引き締めて頑張ります。

「第 10 回　思春期ピアカウンセリング全国大会」を開催して

看護学部 4 年　　難波　桃子

2023 年 9 月 17 日（日）に、「第 10 回思春期ピアカウンセリング全国大会 in とちぎ」が自治医科大学看護学部で開催されました。2 年に 1 度開催されるこの大会は、全国各地でピア活動を行っている「ピアっ子」たちが交流し、それぞれの場所での活動や今後の活動への希望を語り合うものであり、2023 年は第 10 回という節目の大会でした。

『一期一会　New Normal Peer ～ピアの輪で若者たちを“誰一人取り残さない”未来を目指して～』というテーマのもと、群馬県、富山県、鳥取県、鹿児島県など全国各地から「ピアっ子」が集まり、10 回の歴史の中で初めてのハイブリッド形式での開催となりました。当日は対面とオンラインの参加者を合わせて 100 名以上が参加しました。今の思春期の若者たちはコロナ禍で、今まで当たり前にできていた生活を制限されることにより、自分自身に自信が持てなかったり、自分の将来に希望が持てなかったりしています。「J ☆ PEER（自治医科大学ピア活動サークル）」として若者に寄り添う実際の活動を通しても、新型コロナウイルス感染症が若者に与えた影響はとても大きいと感じています。そんな若者たちに寄り添う仲間として、全国大会では自分たちがコロナ禍で経験したことや感じた気持ちを振り返り、今の若者たちは何を求めているのか、自分たちにできることは何かを語り合い、今後のピア活動へのヒントをたくさん得ることができました。

コロナ禍によってピア活動ができない期間が長く続きましたが、全国の「ピアっ子」との交流を通して、これからも若者たちを誰一人取り残さない活動を続けていきたいと、改めて感じた大会でした。

打ち解けあうための交流プログラムの場面

仲間意識を高めるプログラムの様子

オンラインの参加者との交流の様子

企画運営メンバーの３年生と４年生

５年ぶり全面開催　薬師祭（学園祭）に参加して

第 52 回薬師祭副実行委員長・看護学部 3 年　　荒　美保

感染症や台風の影響で 4 年間全面開催ができなかった薬師祭も、第 52 回は 2023 年 10 月 6 日･7 日･8 日の 3 日間にわたって無事に開催することができ、当日は想定をはるかに超えたお客様にお越しいただきました。人気お笑い芸人によるお笑いライブなどのイベントがあり、飲食物の屋台などもたくさん出店できたりし、とても賑やかな雰囲気でした。学生も教職員も一般の参加者の方々もみんながワイワイ楽しめる、祭りと呼ぶのにふさわしい学園祭をつくりだせたことに実行委員として達成感を感じました。

私は実行委員の中で 2 つの仕事を主に行っておりました。薬師祭のロゴやグッズを作製したり、副実行委員長として関係者の方々と顔合わせする機会に立ち会わせていただきました。実行委員のメンバーは忙しい日々の合間で各関係者への連絡や参加のご依頼、イベントの企画や物品の制作などを行っており、より参加者を楽しませようと努力する一人ひとりの姿がとても格好よく、尊敬できました。また、活動の中で、実行委員のメンバーだけでなく、出店を準備したグループ、卒業生や附属病院・大学内の職員の方々など、学園祭の開催にはこんなにもたくさんの人の協力があってこそできるものなのだということを感じました。新型コロナウイルス感染症の脅威が落ち着いてきているとはいえ、予断を許さない状況の中、関係者皆の熱意と工夫が、当日の大盛況につながったのだと思います。

中夜祭の夜には花火も打ち上げられました。私はボランティアで患者さんと一緒に花火を観覧しました。患者さんが「入院生活で何もできないと思っていたけど、こんなにいいものが見れて元気が出た」とおっしゃっていたことがとても印象的で、入院生活が患者さんにどのような影響を与えるのか考えるきっかけにもなりました。薬師祭に参加、協力してくださった方々との交流を通して、喜んでもらうため働くという経験は私自身の視野を広げ、患者さんにとって何が最善なのかという自身の看護観にも影響を与えました。

皆に喜んでもらえる薬師祭の実行委員のメンバーの 1 人として携われたこと、たくさんの人と協力し、人とのつながりや努力を自分の目でみて感動できたことをとても光栄に思っています。私にとって貴重な経験となりました。

中夜祭の花火

医療展の様子

後夜祭のフィナーレの様子

「臨地教員のための研修会」について

「臨地教員のための研修会」企画担当責任者
令和５年度臨地実習指導研修委員会　副委員長　　永井　優子

臨地実習指導研修委員会は、毎年２月に「臨地教員のための研修会」を開催しています。

臨地教員とは、看護実践教育の指導体制の充実を図るともに、看護の質の向上を図ることを目的として、看護学部から実践教育力、実践マネジメント力、実践研究力から構成される看護実践教育力を認められ、臨地教授等の称号を付与された実習教育に協力する医療機関等において臨地教育等に優れた看護職の総称です。臨地実習の調整をはじめ、看護学部や大学院看護学研究科の講義や演習等も担当し、令和６年度現在、臨床教授２名、臨地准教授６名、臨地講師 65 名、の合計 73 名となりました。教員と同様にファカルティ・ディベロップメント（FD: 資質向上を通して教育の質の保証に貢献しようとする組織的な取り組み）が求められるため、本委員会は、年１回 FD 活動として本研修会を開催しています。

令和５年度は、令和６年２月 27 日に「臨地教員に必要とされる看護実践教育力～新カリキュラム適用にかかわる実践教育力と実践マネジメント力に焦点を当てて ～」をテーマに開催し、臨地教員 50 名が参加しました（参加率 70.5%）。

主な内容は講演１時間とグループワーク 70 分間で構成しました。塚本友栄委員長の挨拶に引き続き、最初に令和４年度改正カリキュラムで令和５年度から開始した「日常生活援助実習」（2 学年）の実際について、科目責任者の内堀真弓教授および荒井則子臨地講師（自治医科大学附属病院内科総合・内分泌代謝科病棟師長）が講演しました。次に、今年度から開始する成人看護学の実習科目のカリキュラムのねらいと変更点について、学科目責任者の村上礼子教授が講演しました。さらに「カリキュラム移行期の実習指導における現状と工夫」をテーマに、5~6 名のグループでディスカッションを行った後、20 分間全体共有をして閉会となりました。

アンケート結果（回収率 100%）では、本研修会の継続参加者は約 90%、臨地教員の経験年数３年以上の者が約 85% で、臨地教員は本研修会に参加することで資質向上に尽力していることがわかりました。また、本研修会の目的・目標についてはほぼ全員が理解できたと評価しており、看護実践教育力を構成する３つの能力を高める意欲の高まりも 90% の参加者で認められました。

大学設置基準の変更に伴い、今年度からは臨地教員の FD 参加率も 100% が求められております。今年度は、３学年までの学生と４学年の学生は、異なるカリキュラムを運用いたしますので、教員と臨地教員が協働して教育の質の向上に取り組んでいきたいと思います。

臨地講師の立場からの講演

グループワークの様子

看護学部教員共同研究費での研究活動について

成人看護学　講師　　佐々木　彩加

本看護学部では、教員が臨地実習関連施設の職員など、本学の教育に協力していただいている方々と一緒に行う研究を推進するための、「看護学部教員共同研究費（以下、共同研究費）」という助成制度があります。

共同研究費を用いた研究には、学生が実習を行う多様な病棟や施設の看護師長、臨地実習指導者をはじめとした看護職の方々が、共同研究者として参画しています。また、看護学部内の学科目を超えて、さまざまな背景や経験を有する教員同士が共通の課題を見出して取り組む共同研究も行っています。

成人看護学では、学生や臨床の看護師に向けた教材の開発に特に力を入れた研究を遂行しています。成人看護学における学習の特徴として、学生がより臨床に近い状況で看護技術や患者との関わりなどの実践を学んでいるという点が挙げられます。そのため、臨床の現場で使用している実際の機器・物品の使用や、患者の状況を再現できるシミュレーターを多く活用しています。このような学科目の特徴をふまえ、学生が看護実践の場をイメージして必要な看護を実施できることを目指した研究に取り組んでいます。

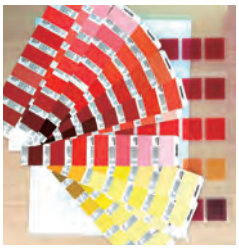
共同研究費による研究の一つとして、附属病院の看護師による手術後の患者への一連の介入場面を再現し、動画の撮影、実践における工夫点の言語化などを行っています（研究代表者：成人看護学　渡邉賢治）。この研究には共同研究者として実習で学生指導に関わる看護師が多く参加しているため、学生の状況を臨床の看護師に知ってもらう機会にもなり、研究会などをとおして教員との連携も取れるので、円滑で学生の準備状況に合わせた効果的な実習指導につながっています。

また、臨床経験に関わらず、学生や新任の医師・看護師も含めて誰でも同じ判断ができるようなスケール（指標）の検討も、共同研究費を用いて行っています（研究代表者：成人看護学　佐々木彩加）。手術後の異常の早期発見において重要となる観察項目に、ドレーン管理というものがあります。ドレーンは、手術後などで患者の体内に貯留した血液や浸出液などを、体腔外に排出させるために挿入されるものです。排出される液は、目視できない体内の状況を推察し正常な経過かどうかを判断するための情報として重要です。しかし、排液の色は観察する医療者によって表現に差があるのが現状です。そこで、排液の色のスケールを見本として作成し、附属病院の外科系病棟の医師と看護師に、スケールの色が正常な回復過程にみられる排液の色として妥当か評価をしてもらう調査を進めています。

今後は、共同研究費による研究で築いた臨床の看護職の方々とのつながりや得られた研究成果を基盤として、外部研究費の申請や研究チームの構築も目指しています。

術後の観察の様子

附属病院看護師による手術直後の
看護のシミュレーション



ドレーン排液の色の
スケール（指標）を検討

令和５年度自治医科大学卒業式および学位記伝達式

令和６年３月１日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、令和５年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました（医学部 47 期生 121 名、看護学部 19 期生 101 名）。

式典では、看護学部を代表して柿沼莉里花さんに、永井学長から卒業証書・学位記が授与されました。卒業式終了後、看護学部校舎において、学位記伝達式が開催されました。

式典中の様子

学長からの式辞

学部長からの学位記授与

令和６年度自治医科大学入学式

令和６年４月５日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、令和６年度自治医科大学入学式が執り行われました。今年度は医学部 53 期生 123 名、看護学部 23 期生 105 名が入学し、看護学部を代表して金子詩季さんが誓いの言葉を述べました。

式典中の様子

理事長からの挨拶

金子詩季さんによる誓いの言葉

看護学部　学科目別教員一覧（令和６年７月１日現在）

（職階別五十音順）

学科目	職位	氏名	備考
看護基礎科学	教　授	大塚　公一郎	学生委員長 学年担当アドバイザー総括
	教　授	倉科　智行	
	准教授	平尾　温司	
	准教授	関山　友子	２学年担当アドバイザー
	講　師	鹿野　浩子	１学年担当アドバイザー
基礎看護学	教　授	小原　泉	看護学部長
	教　授	内堀　真弓	
	准教授	石井　容子	１学年担当アドバイザー
	講　師	井上　育子	１学年担当アドバイザー
	助　教	大串　未来	
	助　教	高瀬　梨恵	
地域看護学	教　授	春山　早苗	
	教　授	塚本　友栄	
	准教授	島田　裕子	
	講　師	青木　さぎ里	
	講　師	市川　定子	４学年担当アドバイザー
	助　教	岸　範子	
	助　教	山岸　美穂	
精神看護学	教　授	半澤　節子	
	教　授	永井　優子	
	講　師	路川　達阿起	４学年担当アドバイザー
	助　教	地神　由加里	
母性看護学	教　授	川野　亜津子	
	教　授	角川　志穂	広報委員長
	講　師	上野　知奈	
	講　師	谷田部　典子	３学年担当アドバイザー
	助　教	前田　彩乃	
	助　教	二宮　美由紀	
小児看護学	准教授	田村　敦子	３学年担当アドバイザー
	講　師	小西　克恵	２学年担当アドバイザー
	講　師	飯島　早絵	
	助　教	赤羽　郁美	
成人看護学	教　授	村上　礼子	教務委員長
	教　授	長谷川　直人	
	准教授	佐藤　幹代	２学年担当アドバイザー
	准教授	古島　幸江	４学年担当アドバイザー
	講　師	佐々木　彩加	
	講　師	渡邉　賢治	３学年担当アドバイザー
	助　教	石井　沙季	
	助　教	小川　晴香	
	助　教	村松　真吾	
老年看護学	教　授	浜端　賢次	国家試験対策委員長
	准教授	川上　勝	
	助　教	國府田　望	
看護学部兼務	准教授	八木　街子	看護師特定行為 研修センター本務

令和６年度年間スケジュール（R6.7.1 時点）

前学期					後学期						
４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
春季休業（4月27日～5月6日） 1年次 前学期授業開始（8日） 入学式（5日） 2・3・4年次 前学期授業開始（2日）	3年次 各論実習①（主に病院での実習：13日～7月26日） 創立記念日（14日）	1年次 対象の理解実習（24日～28日）	4年次 総合実習（29日～8月9日） 1・2年次定期試験（22日～26日） 4年次定期試験（16日～18日）	再試験（8月26日～8月28日） 夏季休業（8月10日～9月16日）	2年次 日常生活援助実習（24日～10月31日） 後学期授業開始（17日） 4年次選択 助産学実習（2日～11月8日）	薬師祭（11日～13日）	3年次 各論実習②（主に地域・在宅・病棟での実習：18日～2月21日） 防災避難訓練（5日）	冬季休業（12月27日～1月9日）		2年次定期試験（10日～13日） 1年次定期試験（7日～13日）	学年末休業（15日～） 卒業式（7日） 再試験（3日～4日）

令和５年度　学校法人自治医科大学決算について

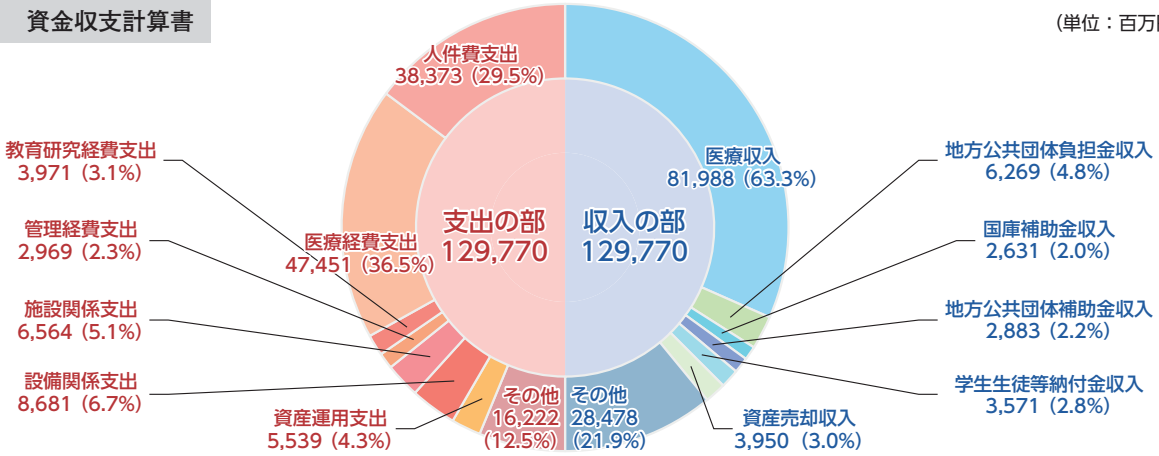
令和６年５月２８日（火）に開催された理事会及び評議員会において、令和５年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。

・資金収支計算書（図１）

１年間に実際に収入又は支出した金額（現金ベース）を主として科目別に分類して表した決算書です。

図1　資金収支計算書

（単位：百万円）

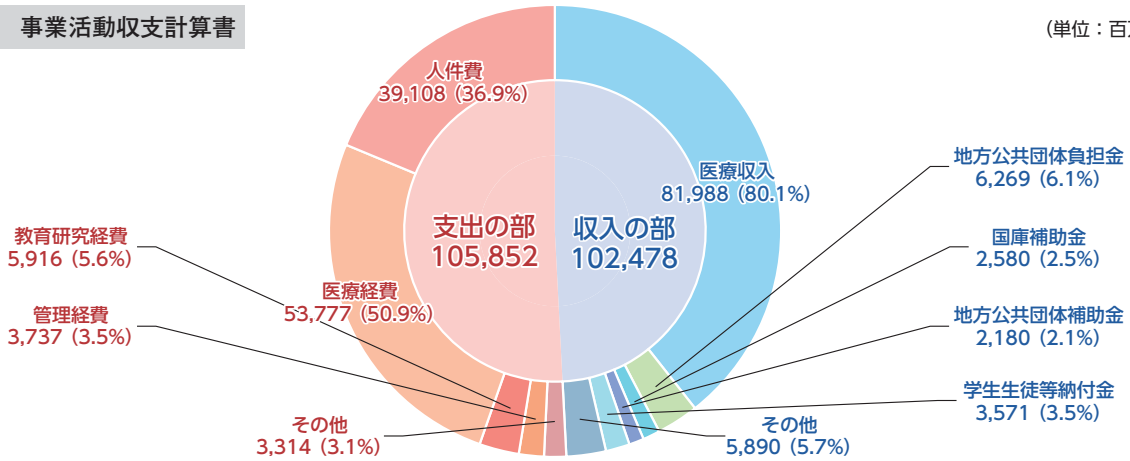


・事業活動収支計算書（図２）

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

図2　事業活動収支計算書

（単位：百万円）

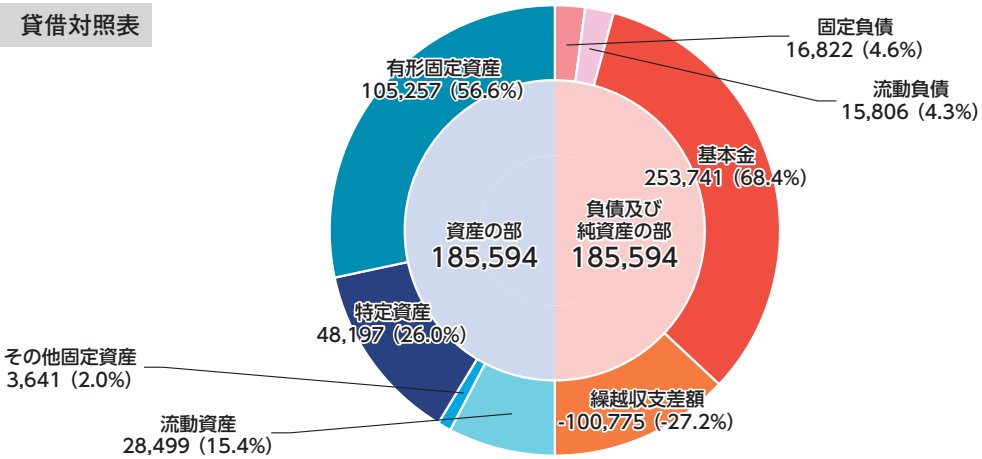


・貸借対照表（図３）

５年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

図3　貸借対照表

（単位：百万円）



※財務状況等の詳細は、大学ホームページ
https://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.htmlの「情報公開」でご覧になれます。

令和５年度事業の概要について（大学事業報告書より、看護学部関係一部抜粋）

看護学部は、４年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施しました。 なお、COVID-19 への対応については、学部長補佐会議において検討を行い、教育の質の維持に努めました。

① 学生教育に関すること

・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に対応した新カリキュラムについて的確な実施に努めた。また、国家試験対策委員会の分析結果に基づき、教務委員会において強化が求められる教育内容を確認した。

・総合分野の各科目の到達度等を教務委員会で共有し、令和６年度に向けての課題を検討し、改善が講じられた。

・国家試験対策について、全員を対象とする対策に加え、３年次までの GPA（成績評価指標）成績と模試結果を踏まえ、学習支援の強化が必要な学生を絞り込み支援する取組も行った。

・学習進度別到達目標に対する自己評価（ポートフォリオ）、ポートフォリオ･カン ファレンス及びポートフォリオ面接の実施により、ディプロマ・ポリシーに基づいた卒業時到達度評価方法を評価した。

・単位取得状況、GPA や学生のポートフォリオデータの集計・解析により、授業の目標設定と評価方法の妥当性、ディプロマ・ポリシーごとの学生の到達状況を確認・評価した。

・令和５年８月に学生４名、教員３名が渡航し、モンゴル医科大学ダルハン校との国際 交流を４年ぶりに実施し、授業科目「へき地の生活と看護」に係る学習目標の到達度 を高めた。

② 学生の受け入れ・支援に関すること

・オープンキャンパスは ４ 回対面開催を行い、令和 ４ 年度より参加者数が増えた。また、参加者のアンケートから、さまざまな企画に対する参加ニーズや参加した満足度の高いコメントが得られており、効果的な広報活動につながった。

・アドミッション・ポリシーに適した学生確保のため、高等学校の学習指導要領を踏まえ、令和 ７ 年度以降の入学者選抜試験における数学の出題範囲を見直した。

③ 学生への支援について

・学生と看護学部長との懇談会、学生自治会・学生寮自治会と学生委員会委員との連絡会を定期的に実施した。また、寮運営担当・学生自治会担当教員が主たる調整役となり、学生自治会・学生寮自治会活動の活性化への働きかけを行った。

・附属病院看護職キャリア支援センター、看護学部・看護学研究科同窓会と連携・協力し、学生委員会が中心となり、キャリアガイダンスを実施し、学生のキャリア支援を行った。

編集後記

本誌“ビタミン・N”は、Nurse を志す学生や学生を支えてくださっている皆様に“ビタミンのようなちょっとした元気”をお贈りしたいという願いを込めて作成しております。新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行して約１年、どんな時も変わらず元気いっぱいな看護学部の日常をたっぷりとお届けいたしました。今後とも、“ビタミン・N”を何卒よろしくお願いいたします。

（担当：永井 優子、小西 克恵、スタナーズ 里杏）

ビタミンN 第21号

発行日：令和6年8月1日
発　行：自治医科大学看護学部
本件に関するお問い合わせ先：
〒329-0498　栃木県下野市薬師寺3311－159
ＴＥＬ　0285－58－7409（看護総務課）
E-mail　ksoumu@jichi.ac.jp